

作文部門

▲総評▼

今年は、例年よりもさらに題材の広がった良い作品が多く見受けられました。

ただ、日常的なものを表面的な視点でとらえただけで、低学年になればなるほど、生物を題材にした一方的な観察日記のような作文が非常に多かったです。日常的なものを見つめる姿勢

文部大臣奨励賞

「我が家の宝もの」

高知県高知市立潮江東小学校

五年 棚橋 陽子



私の家は酒屋です。そんな私の家には、とても古いレジスターがあります。このレジスターは、昭和三十四年に祖母が買ったもので、それからずっと店のカウンターのの上に、どっしりとすわり続けているのです。このレジスターは手動式でコードがなくすっきりしているし、その古くさい形や色等がステキだというお客さんが多く、なぜかとても人気があります。先日初めて来た、若い女のお客さんがこのレジスターを見るなり、「ウー、すごいこのレジ。こんなが初めて見た。カッコいいですね。まだ使えるんですか。形もかわいいし、本当にステキ。」と、歓声を上げました。これを聞きつけた祖母は、待つてましたとばかり店へ出ていき、お客さん相

勢はよいのですから、それをもう少し深く、しっかりと見つけて自分の言葉で素直に表現してほしいと思います。また、全体を通して言えることは文章そのものが説明的に流れてしまう傾向があったことです。次回は、自分の言葉を最大限に生かした、心に残る力作を期待しています。

手に、レジスターの自慢話を始めるのです。祖母はいつも決まったように、

「このレジは、スウェーデン製でね。買ったときはものすごく高くて、おばあちゃんも清水の舞台から飛び下りるつもりで買ったわね。なんせ、日本製が三万ばあで買ったのに、これは十四万円もしたやき。けんどうやっぱこれにしてよかった。こんなにもったがやも。お客さんにも今だに喜んでもらえて買ったかいがあったわね。」と言っています。でも、こんなふうにレジスターの自慢話をしているときの祖母は、生き生きとしていて、瞳もキラキラと輝き、まるで少女のようです。こんな幸せそうな祖母を見ると、私の心も何だかはずんでくるようです。今、七十八歳の祖母は、この頃は店へ出て商売をすることは、ほとんどありません。でも、家の中で食事の仕たくをしたり、自転車に乗って買い出しにも行くなど、今でも元氣者です。祖母があんまり働き者な人で、私は時々、つかれ過ぎないかと心配になり、「おばあちゃん、そんなに動いて大じょうぶかえ。無理しなよ。」

と、声をかけることがあります。そんなとき祖母は、いつも、いせよく

「おばあちゃん、昔は店でお酒を売り、配達も行き、台所もし、帳面もつけよった。朝から晩まで働き通しやっただ。けんどう、働くことはおもしろかったねえ。今は台所仕事ばあやき、楽なもんやき心配しなよ。」

と、口ぐせのように言います。祖母がよく働いたことは母からも何回も聞かれました。

「おばあちゃん、いつ寝よったかわからんばあ働き者やっただ。夜中に私が目をさましたとき、まだ帳面をつけよった。どうして私のお母さんだけこんなに、忙しいのがやろうと、私はふしぎやっただ。」

と、母は私によく話します。私は、これらの話を聞くと、おばあちゃんには本当にえらい人だなあ。おばあちゃんこそ働く女の人のお手本や」と思い、感心してしまうのです。

祖母が、思い切った買ったというレジスターは三十三年間、我が家のカウンターのの上から、祖母がこんな風に働き続けて来た姿を見つめてきたのです。買ったとき、小学生だった母が、大きくなっていくのもこのレジスターは、じっと見ていたのです。もしかしら、このレジスターが私たち家族のことを一番知っているのかもしれない。

そう思うと、私はこのレジスターが我が家の宝物のように光り輝いて見えてきたのです。

そんな、祖母や家族の生活を見つめてきたレジスターを、今、父と母は大切に守っています。父は時々、故障を出したレジスターを自分の手で時間をかけて修理しています。

「これはおばあちゃんのレジやきね。おばあちゃんに元気でいてもらうためにも、まだまだ現役

で動いてもらわんといかんきね。」

と、言ってほこりをのけたり、古くなったレジスターをせっせとみがいたりしています。

去年の夏、高知新聞に母が手紙を出したのが、きっかけとなり我が家のレジスターが新聞に掲載されました。このことを一番、喜んだのは、もちろん祖母でした。私が祖母に、「おばあちゃん、よかったねえ。」

と、声をかけると、祖母はじつと新聞を見て、

「ありがたいねえ。こんなに大きく出で。陽子、古い物もすてられんや。新しい物はええに決まっちゃうけんどう、古い物がええこともある。温故知新ということね。」

と、私に教えてくれました。私は、温故知新という言葉を知り、本当にその通りだと思いました。祖母が古いレジスターを大切に守って来たから、新聞に出ることもできたのです。祖母は、今日も元気に自転車に乗って買い物に行きました。そして、レジスターもしっかり動いています。でも、機械はいつかこわれてダメになる日がやってくると思うのです。けれど、祖母にはこれからもずっと元気でいて欲しいと、私は心から願っています。レジスターは我が家の宝物です。でも、それ以上に大切で、キラッと光っている我が家の真の宝物は、やはり祖母なのです。

▲選評▼

人と人とのふれあいを題材にし、家族のほほえましさや温かさが伝わった作品です。地味な日常生活の中のできごとを、誇張した表現を一切使わず、手応えあるものに仕上げた見事な力作です。

その他の入賞者

絵日記部門

★優秀賞

「えんじき」

「絵日記」

「たのしかった なつやすみ」

(兵庫・愛徳学園小一年 井上未実
(東京・淑徳小一年 岡崎麻紀
(岐阜・柳津小二年 和田眞希

★優良賞

「たのしかった なつやすみ」(茨城・土浦第一小一年 坂本 恵
「日記」(東京・淑徳小一年 鈴木文花「えんじき」(東京・淑徳小一年 篠 宏亮「えんじき」(宮城・古川第二小一年 穴戸瑞穂「夏のおもいで」(愛知・西成小二年 山形幸子

★佳作

「えんじき」(福井大学教育学部附属小一年 林 亜季「絵日記」(大阪府教育大学教育学部附属天王寺小一年 足立 恵「えんじき」(宮城清滝小一年 千葉晶壽「絵日記」(東京・淑徳小一年 金子紗由美「絵日記」(東京・淑徳小一年 竹川桂子「絵日記」(新潟大学教育学部附属新潟小一年 田島真弓「草花につき」(岐阜・柳津小一年 青木佑佳「きのう、きょう、あした」私の絵日記」(岐阜・柳津小一年 加藤有希子「えんじき」(岐阜・柳津小一年 下條いずみ「なつのおもいで」(大阪教育大学教育学部附属天王寺小一年 西郷 学

習字部門

★優秀賞

「星空」

「国際環境保全」

「清水東流去」

(青森・常盤小五年 工藤正志
(愛知教育大学附属名古屋中二年 粉川 詠子
(奈良・育英西中三年 山本幸世

★優良賞

「図画工作」(大阪・茨木小四年 布部陽子「漁夫の利」(愛知・古知野南小五年 加藤 文「英雄」(青森・田舎館小五年 田中裕二「緑の草原」(福岡・藤吉小五年 白石和久「夢と希望」(青森・黒石中一年)佐藤亜衣

★佳作

「ふじ」(岩手・城北小一年 本宮芳恵「くふう」(奈良・三宅小二年 姥谷貴之「はな」(奈良・広陵北小一年 林田和美「けんこう」(愛知・西端小一年 鈴木裕香理「なまよし」(奈良・田原本東小三年 池麻衣子「小川」(福井・武生西小三年 金子千花「明るく」(福岡・中島小四年 坂井麻紀「山鳥の声」(群馬・芳賀小四年 友里「たすけあい」(愛知教育大学附属岡崎小四年 澤田憲吾「野鳥の群」(青森女鹿沢小六年 大川優美子

作文部門

★優秀賞

「私のなんじょう」

「私の友だち、きぬちゃん」

「お父さんがんばつて」

(茨城・真壁小二年 田崎奈津美
(群馬・芳賀小四年 林 友里
(福島・下川崎小五年 鹿野 恵

★優良賞

「宇宙の感動」(千葉・中山小五年 小西政親「私の夢」(東京・若杉小五年 池田彩子「たった一人の大好きなお父さん」(愛知・古知野西小五年 和田しおり「ガジュマルの木」(兵庫・愛徳学園小六年 有馬瑞「生きる」ということ」(群馬大学教育学部附属中一年 林 里奈

★佳作

「わたしとピピ」(東京・淑徳小一年 清水小百合「こわれてしまったありのす」(群馬大学教育学部附属小二年 林 早恵「わたしのうち」(群馬大学教育学部附属小二年 高橋麻衣「くいしんぼのさかなをつかまえた」(愛知教育大学附属岡崎小二年 藤野 麻美「わたしの大好きなリス」(大阪教育大学教育学部附属天王寺小一年 綱木麻帆「お父さん、おつかれさま」(山梨・鳴沢小三年 小林真由良「がんばれ浩和君」(福島・下川崎小四年 野地俊彦「アメリカへ行つた加奈ちゃん」(兵庫・愛徳学園小四年 田上麻由子「私にもできた」(兵庫・愛徳学園小五年 黒田れい「七千三百年前の足跡」(兵庫・愛徳学園小六年)大塚紀子「ヒロシマで見たもの」(埼玉・道祖上小六年 内田美紀「多くの人の支えで」(福島・譚教小六年)戸川八洋

学校賞受賞校

★優秀学校賞

岐阜県・柳津町立柳津小学校

★優良学校賞

福島県・安達町立下川崎小学校
岐阜県・岐阜市立長良西小学校
岐阜県・岐阜市立長良中学校

★学校奨励賞

東京都・淑徳小学校
東京都・東京学芸大学附属小金井小学校
岐阜県・組合立境川中学校
大阪府・大阪教育大学教育学部附属天王寺小学校
大阪府・大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校
兵庫県・愛徳学園小学校